

ファンの行動的・心理的特性の検討

—音楽ファンとの比較を通じて—

戸田 泰雅 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

指導教員 吉倉 秀和

キーワード：スポーツファン,行動的特性,心理的特性

1. 緒言

ファンの多様化する現代において、スポーツファンの特性を理解することは、スポーツ産業において重要であると言える。ファンの行動的・心理的特性についての研究は行われているが、スポーツファンとスポーツ以外のジャンルのファンと比較した研究は少ない。また、先行研究で行われた調査では、質問用紙によるもので、項目に関しての具体性に欠けている。インタビューを行いキーワードから両者の行動的・心理的特性を比較し、共通点や相違点を明確にすることで、スポーツファンの特性を具体化することを目的とする。

2. 調査概要

【調査対象者】

両ファンともに男女2名ずつ、計8名。

【調査方法】

インタビュー内容は、川上(2005)で用いられた好きな対象への気持ち尺度 10 因子と向居ら(2015)のファン行動尺度を援用し、インタビュー項目を作成する。キーワードから特性について検討する。

3. 結果と考察

インタビュー結果を検討し、まとめたものが図1・2である。検討から、心理的・行動的ともにスポーツファンは体現性の高い特性があると考えられる。両特性に共通して「一体感」という言葉が得られた。対象の発言や行動から一体感を感じたり、応援やグッズなど、ファン自身が行動で一体感を表現するなどしている。

体現性の高いことにファン自身が魅力を感じていることに加え、スポーツファンのみから回答を

得たということは、スポーツファンの特性であると同時に、スポーツ観戦あるいはスポーツチーム、スポーツ選手の魅力であるとも考えられる。チームや選手あるいは会場で目に見える繋がりを感じさせることや、ファンがそれを表現できる環境などは、スポーツ観戦の満足感を高め、太いファンの獲得に繋がっていくのではないかと。しかし、本研究では定義などから一部のファンを対象としている。競技特性やファンの定義などから、ファンの多様性を考慮した検討をしていくことで、より幅広く知見が深まることを期待する。

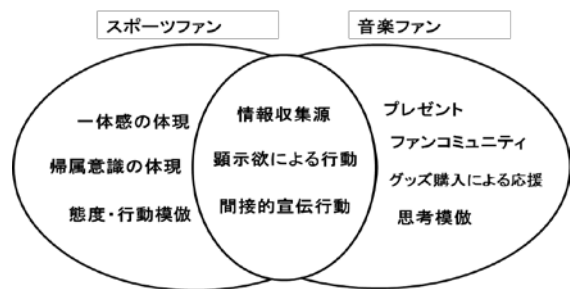


図1 行動的特性の比較図

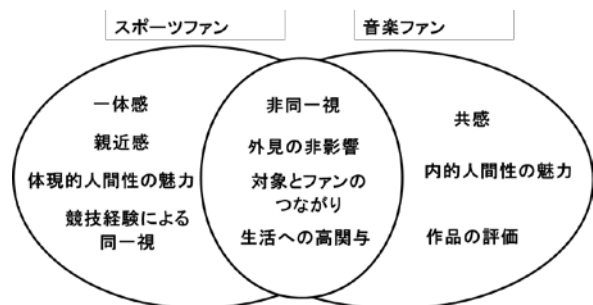


図2 心理的特性の比較図

6. 主な引用参考文献

川上桜子 (2005). ファン心理の構造—思春期・青年期の発達課題との関連から— 東京女子大学心理学紀要, 1, 43-55.